

第1章 子どもの読書活動推進計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、単に読む力をつけ、知識を得るだけではなく、創造力、表現力、感受性を養い、人生をより豊かに生きるための力を身につけていく上で極めて重要であるといえます。しかし、今日、子どもを取り巻く生活環境は、テレビ、パソコン、多機能携帯電話等の情報メディアの発達と普及によって、めまぐるしく変化してきています。これらの変化や趣味、習い事などの増加による読書時間の減少が懸念されています。

子どもの読書量は毎年5月の1か月間を対象とした学校読書調査(全国学校図書館協議会・毎日新聞社共同)によると、2017年の平均読書冊数は小学生11.1冊、中学生4.5冊、高校生1.6冊で、また、不読者の割合は小学生5.6%、中学生15.0%、高校生50.4%であり、成長とともに時間的な制約等から読書離れが進む傾向が見られます。

これは、今後対策を講じていかなければならない重要な課題であるため、国は、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、読書活動推進の基本理念が定められ、また岐阜県においては、平成27年3月に「岐阜県子どもの読書推進計画(第3次)」を策定し、子どもの読書活動の推進を図っています。

本市においては、平成25年度から平成29年度までを「第一次」として「山県市子どもの読書活動推進計画」を策定し、計画に基づき子どもの読書活動に関する事業を実施して参りました。そしてそれらを検証し、「第二次山県市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

引き続き、国・県の指針に沿って取り組むべき方向性を明確にし、家庭・地域・学校等が一体となり、積極的に子どもの読書活動の推進を図っていきます。

2 計画策定の基本方針

すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ効果的に読書ができるような環境を積極的に整え、読書活動を推進していかなければなりません。

そこで、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念を

踏まえ、山県市の子どもの読書活動推進の基本方針を次のように定めました。

(1) 子どもが読書に親しむ機会づくり

乳幼児期から読書に親しみ、発育・発達に応じ自主的に読書習慣を身につけていくことができる機会づくりに取り組みます。

(2) 家庭・地域・学校等の連携による読書活動の推進

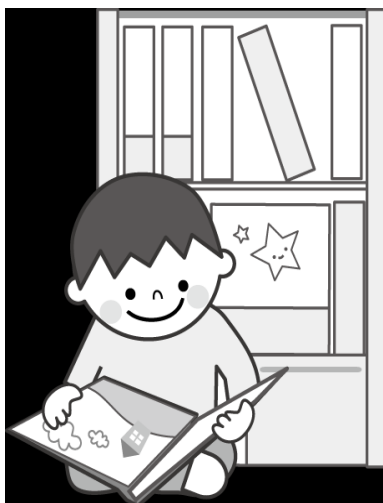
家庭・地域・学校等がそれぞれ担うべき役割を果たしながら、連携・協力して子どもが日常的に読書に親しむ環境を整え、子どもの読書活動を推進します。

(3) 子どもの読書の意義と重要性の啓発

子どもの読書活動の意義及び重要性について、大人に理解と関心をもってもらうための啓発を行い、市全体で子どもの読書活動を推進します。

3 計画の期間

計画期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間とします。



第2章 子どもの読書活動推進のための方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭において

■現状と課題

読み聞かせは、子どもの想像力や豊かな感性を育むうえで大切なことといわれています。特に家庭における乳幼児期からの読み聞かせは親子のコミュニケーションを促すとともに愛情を深め、子どもの本を読む力に結びついていきます。

山県市社会福祉協議会では、生後6か月までの新生児をもつ保護者を対象に、申請に基づき絵本を1冊プレゼントする事業を行っています。

乳幼児健診等の会場には年齢にあった絵本を年齢別に整備していますが、保護者に対して、読み聞かせや本の活用の仕方等を積極的に周知する必要があります。

また、絵本等は市図書館や保育園、児童館において積極的に貸し出しを行っており、多くの家庭で読み聞かせが行われるなど成果を上げています。しかし、小学校高学年、中学校、高等学校と年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向にあることから、保護者や子どもが読書の必要性を認識し、各家庭において子どもが読書にかかわりをもてる環境づくりに取り組む姿勢が一層求められています。

●施策と具体的な取組

◇乳幼児期からの読書活動の推進

- ・全新生児を対象としたブックスタートを実施します。
- ・乳幼児健診等の機会を活用し、読み聞かせの大切さを保護者に伝えていきます。
- ・保護者を対象とした読み聞かせ講座を実施します。
- ・各家庭における読み聞かせを推進します。
- ・図書館等のおすすめ本の紹介や読み聞かせ会などへの参加を促進します。

◇小学生・中学生・高校生の家庭での読書活動の推進

- ・家族ぐるみの読書活動を推進します。
- ・子どもの発達に合わせた本の選書による読み聞かせ等読書活動を推進します。
- ・家族が共有できる書架の設置を推進します。

(2) 保育園、小・中学校家庭教育学級（PTA活動）において

■現状と課題

現在、各家庭教育学級は、保育園、小・中学校の家庭教育学級長と学校担当者を中心とした役員により運営されています。家庭教育学級では、子どもの成長段階で必要な親の働きかけや社会問題への対応など、家庭教育に関する知識や情報を親同士で学び、交流する場として開催されており、リース作りなどカルチャータ的な講座や、情報モラルの研修など、各学校で内容に工夫を凝らして参加者を募り、家庭教育の重要性に理解を深めています。

しかし、家庭教育学級の中で、本の読み聞かせ講座などが行われ、家庭における子どもたちの読書習慣がつきつつあるものの、家庭内での読書活動の重要性について、啓発を図るような内容の講座がいまだ少ないのが現状です。今後も、家庭での読書活動を一層推進するため、読書に関わる学習会や講座を開催するなど、積極的に取り組む必要があります。

●施策と具体的な取組

◇家庭教育の一環としての読書活動の推進

- ・子どもの発達に応じた読書活動の意義や重要性についての学習会を開催します。
- ・子どもの本の選び方、読み聞かせの仕方など、家庭内で子どもの読書習慣に結びつく学習会を実施します。
- ・保護者自身が本に対して、興味・関心をもつような講座を家庭教育学級の中で実施します。

(3) 子ども会活動において

■現状と課題

子ども会は、地域の年齢の異なる子どもが集まり、様々な活動をしています。集団遊びや地域とのつながりを通して、子どもの心身の成長発達を促す活動を行っています。また、相手を思いやる優しい心や仲間づくりも大切な活動の一つとなっています。

しかし、これまで子どもの読書につながる活動はあまり見受けられない状況となっていることから、今後は、絵本や紙芝居の読み聞かせ等を積極的に活動に取り入れてもらえるよう、子ども会役員への働きかけが重要となってきます。

●施策と具体的な取組

◇子ども会活動における読書活動の推奨

- ・子ども会活動での読み聞かせや読書会を推進します。
- ・子ども会役員を対象とした読み聞かせ教室を実施します。

2 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 公民館において

■現状と課題

公民館では、読み聞かせボランティアの「おはなしピーチク」や伊自良読書教室が活動を行っており、地域における読書活動の推進に積極的に取り組むとともに、読み聞かせの充実を図っています。また、山県市文化協会読書連盟が発行している文集「石楠花」に対する活動支援も行っています。

しかし、ボランティアの人員不足などから幅広い年齢層からの協力を得ながら、地域ぐるみの読書活動を支援していくことが求められています。

●施策と具体的な取組

◇地域住民等による子ども読書関連活動への支援

- ・読み聞かせボランティア等、子どもの読書活動推進にかかわる地域人材を育成します。
- ・子どもの読書活動を継続的に行ってもらうための学習機会を提供します。
- ・ボランティア団体、グループ同士の交流の場を提供します。

(2) 高富児童館・子どもげんきはうすにおいて

■現状と課題

(高富児童館)

高富児童館では、児童・乳幼児の健康増進及び豊かな情操を育むことを目的とし、健全な遊びの指導のほか、児童の居場所づくりや子育て家庭に対する育児支援も行っています。

乳幼児の親子については、核家族化が進むなど、育児手法の伝承が難しくなっているという背景の中、親子の触れ合いが不足している現状も見受けられます。絵本は、親子のコミュニケーションツ-

ルとしても有効であり、読み聞かせ講座、本の貸し出しなどで、さらに啓発に努めます。

児童についても、読書離れが叫ばれる中、読書の楽しさを感じられるようなイベントなども積極的に展開していくことが望まれます。

(子どもげんきはうす)

子どもげんきはうすとして児童・乳幼児の健康増進及び豊かな情操を育むことを目的とし、健全な遊びの指導、子どもの居場所づくり、子育て家庭に対する育児支援を行なっています。

乳幼児期においては本を通じて親子がふれあい絆を深めること、学童期においては知識を深め想像力を豊かにする一助となるよう図書室を設置し、本の貸し出しを行なっています。

乳幼児親子対象に職員・ボランティアによる読み聞かせの時間を月3回実施するほか、幼児教室、親子遊びの時間に読み聞かせを取り入れています。

学童対象では、一部の放課後児童クラブにおいて図書室で過ごす時間を設けており、静かに本を読んだり、児童が選んだ本や紙芝居を自ら友達に読み聞かせるなど本に親しむ様子が見られます。

自主的な読書活動に繋げるために、本に興味をもたせ継続した読書活動を習慣付けることや、本の世界に浸れる環境づくりが必要です。

●施策と具体的な取組

◇読み聞かせや読書活動の推進

(高富児童館)

- ・職員による、親子の触れ合い「にじっこタイム」(毎週月・水曜日)では、絵本、紙芝居などの読み聞かせを積極的に取り入れます。
- ・乳幼児教室では、絵本の良さを伝える講座を実施します。
- ・ボランティアによる読み聞かせを積極的に取り入れます。
- ・絵本、紙芝居等の蔵書を充実し、乳幼児の保護者や児童への本の貸し出しの充実を図ります。
- ・2階遊戯室や、1階図書室には職員おすすめの本の展示なども行い、読書の啓発に努めます。
- ・市図書館の団体貸し出しの活用を図ります。

(子どもげんきはうす)

- ・蔵書の充実、図書館の団体貸し出しの活用により、ニーズを満

たす読書環境づくりを進めます。

- ・学童が本に興味をもてるようなディスプレイや居心地のよい図書室づくりに努めます。
- ・各種行事において読み聞かせなど本に親しむ機会を積極的に設けます。
- ・施設内、おたより内でおすすめ本の啓発をします。

(3) 図書館において

■現状と課題

山県市図書館は、伊自良地区の図書館を本館とし、高富中央公民館、みやまジョイフル倶楽部にそれぞれ図書室を設置し運営を行っています。

読書活動の推進については、乳幼児のうちから本に親しむ環境づくりをしていくことが望まれることから、絵本や紙芝居などの充実を図っており、蔵書全体に占める児童書の割合は、平成28年度末で37.3%と高い数値を示しています。

本館には親子読書室を設けており、毎週土曜日に読み聞かせボランティアによる紙芝居や絵本の読み聞かせを行っています。また、絵本の楽しさを知ってもらうために乳幼児の親子を対象とした講座を定期的を開催しています。

さらに、本に親しむ機会づくりとして、子どもたちが図書館に滞在して楽しめるよう、コミック誌の開架やDVDなどの視聴覚コーナーを設けているとともに、月に一度のミニシアターによるDVD上映会を開催しています。

また、小中学校の図書館見学や職場体験を受け入れて、図書館を身近に感じてもらえるようにしたり、学校や子育て施設などへの貸し出しも積極的に受け入れ、連携を図っています。

今後もより子どもの読書活動を推進していくため、読み聞かせ等のボランティア組織の拡充及び司書の配置と能力向上を図りながら、絵本等の読み聞かせをはじめ、幼児期からの読み聞かせや絵本の楽しさを知ってもらうための親子で楽しめる講座を開催するとともに、子どもにとって「楽しい」、「学べる」、「居心地がよい」といった長時間滞在できる魅力ある図書館づくりに努めていく必要があります。

また、学校や子育て施設への貸し出しを積極的に展開していく上においても、絵本、紙芝居、児童書など蔵書の充実を図っていくことが望まれます。

●施策と具体的な取組

◇本の楽しさの周知

- ・読み聞かせボランティアの育成及び絵本等の読み聞かせをする機会の拡充を図ります。
- ・おすすめ本の紹介を積極的に展開します。
- ・幼児期からの絵本の楽しさを知ってもらうための講座等を開催します。
- ・「子ども読書の日（４月２３日）」、「子ども読書週間」においてイベント等を開催します。

◇魅力ある図書館づくり

- ・各年代に合わせた児童書の充実を図ります。
- ・親子で楽しめる講座等を開催します。
- ・DVD等視聴覚資料及びコミックの充実を図ります。
- ・専門的知識、技能を要する司書の設置及び育成に努めます。
- ・学校等各施設への団体貸し出しを促進します。
- ・本館及び高富図書室、みやまジョイフル倶楽部図書室の親子読書コーナー、ヤングアダルトコーナーの充実を図ります。

3 保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校における子どもの読書活動の推進

(1) 保育園において

■現状と課題

読み聞かせは、乳幼児期の子ども達が様々な言葉を習得していく中で、感性や創造力など豊かな情操を養い高めるとともに、言葉を学ぶための大切な働きかけであるといえます。そこで保育園では、保育士による絵本の読み聞かせを保育の時間の中でほぼ毎日実践し、読書に興味をもたせるよう取り組んでいます。

また、家庭においても保育園より週に一回の割合で、子ども自身が興味、関心を示し選んだ絵本を貸し出し、保護者と子どもと一緒に絵本に触れる機会を生み出すよう促しています。

こうした取組により、保護者が家庭で子どもに読み聞かせをするなど意識が高められています。

今後もさらに読書に親しむ環境づくりや本の充実を目指すとともに、家庭での読書がより一層広がることが望まれます。

●施策と具体的な取組

◇読み聞かせの充実

- ・これまでの取組を継続し、絵本や紙芝居等の読み聞かせを通し、乳幼児が絵本に触れる機会を創出します。

◇読書環境の整備充実

- ・絵本の購入や市図書館等の活用により、発達に応じた絵本を選定し整備します。
- ・絵本等を幼児の目の高さに配架し、安全に落ち着いてじっくりと見ることができる図書スペースの確保に努めます。

(2) 幼稚園において

■現状と課題

幼稚園では、ほぼ毎日、絵本、紙芝居などの読み聞かせの時間を確保し、園児に絵本に対する興味をもたせるとともに、健康や交通安全、防犯・防災など、多種類の分野の紙芝居を購入し、園児の生活指導にも役立てています。

また、大型絵本の数を増やし、視覚的に迫力ある画面の中で絵本を楽しめる機会や、絵本を自由に見られる環境を整えているほか、色々な分野の絵本に触れることができるよう、また、保護者と子どもと一緒に絵本を楽しむ機会づくりになるよう毎月学年共通の多種分野の内容で編集されている総合絵本を一人1冊ずつ購入しています。保護者に対するアンケートでは、家での読み聞かせに幼稚園で購入した本を利用していると答えた保護者が70%であり、活動の効果が見られました。

さらに、保護者に対し、子どもが本に接する大切さを周知させるため、毎月発行の園冊子「げんき」を活用しての本の紹介をはじめ、図書委員会のお薦めの本、学級通信によるクラスで一番お気に入りの本の紹介をしたり、保護者お薦めの本による読み聞かせの実践をするなど園児はよりよい読書活動を行っています。

しかし、取組を行う中であっても、保護者に対するアンケートでは、保護者が多忙により読み聞かせの時間がない等の理由から、家で読み聞かせをされていない家庭が全体の31%を示しているほか、絵本に興味を示さない園児がいることや、保護者用に開架してある本の利用が少ないことなどが課題となっています。

●施策と具体的な取組

◇保護者に対する読み聞かせの働きかけ

- ・園冊子「げんき」等により読み聞かせの大切さや本の紹介など情報を発信します。
- ・保護者意見などを紹介し、保護者に刺激を与え読み聞かせに対する意識の高揚を図ります。

◇絵本に興味をもたせる取組の推進

- ・興味を示すジャンルの把握をしながら意図的な読み聞かせの本選びをしたり、職員の読み聞かせの技能の一層の向上を図ります。
- ・雨天時などを活用し、絵本に触れる機会を意図的に創出します。

◇保護者の読書推進

- ・保護者向け図書の利用を推進します。

(3) 小・中学校において

■現状と課題

各小・中学校では児童生徒の読書活動を推進するため、一斉読書、読み聞かせ、図書館祭りなど多様な取組を行っており、小学校では本をたくさん読むようになっていきます。

また、中学校の朝読書、配膳時間読書の取組は、不読者を無くす上で大きな成果をあげています。どの学校も必読図書を選定し、目的をもって質の高い読書、幅の広い読書となるよう工夫しています。

近年、読書と学力の関係が話題になったことや、教科指導における言語活動の重視等から、教科の指導の中で図書館を利用するという機運も高まっています。すべての学校で標準的な蔵書数を満たしているほか、教科指導に役立つ書籍の充実にも努めています。

また、楽しく、効率よく本の貸し出しができ、さらには他の学校図書館の蔵書も検索できるように、管理方法のデジタル化を進めています。

保護者や地域の関係者との連携については、多くの学校で読み聞かせボランティア等の活用や、親子読書の推進に取り組んでおり、図書館ボランティアも募り、読書指導員と共に図書館の掲示物づくりや環境整備を行うことで、児童生徒が足を運びたくなるような図書館をつくっています。

今後に向けては、読書指導員や司書教諭、司書等専門的知識を有する者が、教員や保護者など大人のためのサポート的存在としても活動し、組織的に図書館活用の意欲・動機付けができるようになることが望まれます。さらに、大人の児童生徒の読書に対する意識や

児童生徒を取り巻く環境の重要性の理解を深め、進んで児童生徒が読書することに結びつく活動の工夫を一層進めていくことが大切です。

●施策と具体的な取組

◇児童生徒の読書活動の推進及び適切な指導、助言を行うための取組

- ・一斉読書、読み聞かせ、図書館祭り、広報などの取組を継続し、読書活動の充実を図ります。
- ・市図書館、PTA、ボランティア、家庭、学校間などの連携を図ります。
- ・図書館担当教諭の研修と校内での研修会の充実を図ります。
- ・読書指導員を各校に配置します。
- ・市の読書感想文コンクールの実施や感想文講座を実施します。
- ・教科の学習に役立つ資料の充実を図ります。
- ・管理方法のデジタル化をさらに推進し、市内の学校図書館をネットワーク化することで、学校同士のビブリオバトルを行うなど、読書意欲の向上を図ります。

(4) 高等学校において（県立山県高校）

■現状と課題

読書の推進については、これまで毎年4月に新入生を対象として、「図書館オリエンテーション」を実施し、図書館の利用法や読書の意義について説明を行ってきました。また、図書に関する総合的な学習の時間（年2回）を利用してイベントやクラス一斉読書などを実施、平成29年度には朝の読書週間を年2回（5月29日～6月2日、1月11日～16日）設けて、全職員で取り組みました。1日の始まりに心穏やかに過ごす時間をもたせることによって、落ち着いた学校生活を送れるという成果が出ました。

また、図書委員の活動では、「図書館だより」（毎月発行）やPOPの作成（随時）を通じて、図書委員のお薦め本を紹介するとともに、教室や図書館に掲示しています。

そのほか、平成22年度からは、みやま保育園、それ以前は美山小学校で読み聞かせボランティアを実施しており、平成29年度は7月18日に図書委員を中心とする生徒6名が参加し、大型絵本や紙芝居の読み聞かせを行いました。

しかし、読書量（貸出冊数）については、平成25年度以降年々減

少する傾向が見られ、毎年特に2年生の減少が目立ちます。その理由として、部活や学習時間の増加に伴う読書時間の減少、読書以外への興味の広がり、携帯電話やスマートフォンの所有・利用率の増加などが考えられます。（参考：「平成28年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果（速報）」政府統計）

今後は、電子機器が普及する中での読書活動について、生徒への啓発の工夫が課題となっています。

●施策と具体的な取組

◇読書活動の推進のための取組及び啓発

- ・「図書館だより」やPOPの作成、展示などによる図書委員を中心とした積極的な広報活動を進めます。
- ・図書館オリエンテーション、総合的な学習の時間及び朝の読書週間での啓発活動を推進します。
- ・生徒の調べ学習に対応できる資料の充実を図ります。
- ・他館との積極的な相互貸借による資料の提供及び情報交流を進めます。
- ・読み聞かせボランティアとして活動する生徒の育成を図ります。



第3章 子どもの読書活動の連携及び啓発並びに推進体制

1 連携及び啓発並びに推進体制づくり

■現状と課題

市図書館をはじめ学校などの機関や家庭において、子どもの読書活動の取組を積極的に行っていますが、連携の面においては十分とはいえない状況にあります。

今後は、家庭、地域、学校がそれぞれの役割を果たしながら、本の相互貸借をはじめ読み聞かせ活動や読書活動のための啓発、情報共有など、市図書館を中心とした連携、協力を積極的に進め、市全体で子どもの読書活動を推進していくための体制づくりが望まれます。

●施策と具体的な取組

◇連携による読書推進

- ・ 図書情報及び読書活動の共有化を図ります。
- ・ 各機関の相互貸借を推進します。
- ・ 市図書館における団体貸し出しの推進を図ります。
- ・ 読み聞かせボランティア等団体との連携・協力を推進します。

◇啓発による読書推進

- ・ 「子ども読書の日」及び「子ども読書週間」の啓発をし、周知を図ります。
- ・ 広報紙や市図書館ホームページ等により、各機関のイベントや活動状況などの取組を紹介します。

◇読書推進の体制づくり

- ・ 市図書館を中心とした各機関の司書等読書担当者及び関係団体の代表者からなる研究会、交流会など開催し、子どもの読書活動を推進します。

資料

山縣市子どもの読書活動推進計画検討委員会名簿
委員

	氏 名	役 職	区分
1	西 村 覺 良	社会教育委員の会 議長	地 域
2	古 田 豊 行	図書館協議会 委員長	
3	江 尾 康 子	読み聞かせボランティア 代表	
4	丹 羽 洋 子	高富児童館 館長	
5	山 本 敏 広	子どもげんきはうす 館長	
6	大 野 憲	P T A連合会 会長	家 庭
7	春 日 涼 子	はなぞの北幼稚園 教頭	幼稚園 保育園 学 校
8	桐 山 藤 夫	福祉課 課長	
9	下 村 五 十 鈴	保育園長代表 伊自良保育園 園長	
10	猪 島 寿 美 子	山県高校 図書司書	
11	鬼 頭 立 城	学校教育課 課長	
12	矢 野 博	小・中学校長代表 富岡小学校 校長	
13	古 田 知 恵 美	小・中学校図書館主任代表 富岡小学校教諭	

事務局

	氏 名	職 名
1	梅 田 義 孝	生涯学習課 課長
2	伊 藤 直 樹	図書館 館長
3	相 川 英 里	図書館 主査

山縣市子どもの読書活動推進計画策定作業部会名簿

	氏 名	職 名
1	藤 根 紀 子	福祉課 係長
2	丹 羽 洋 子	高富児童館 館長
3	浜 田 紀 子	伊自良保育園 副園長
4	榎 並 京 子	子どもげんきはうす 主査
5	日 比 野 希 由	生涯学習課 主事
6	山 田 智 丈	高富中央公民館 課長補佐
5	森 川 勝 介	学校教育課 主幹
6	相 川 英 里	図書館 主査